

自分らしく輝いて生きていこう

さかいこどもクリニック 酒井 圭子

私は、薬学部の大学院を修了した後、再受験で医学部に入学しました。小児科医を志すきっかけとなったのは、枚方市で病児保育所をされていた保坂医師の記事でした。私も働くお母さんを支えられる小児科医になりたい、そう強く思いました。入学前にすでに結婚しており、大学1年と5年のときに二人の子供を出産しました。一人目のときは、保育園に預けて学業と両立していましたが、解剖実習が始まったときに、私の実家（兵庫県）に預けて週末帰る生活が続きました。主人は外国航路の船員で1年の大半海外にいるため、子育てという面では全く頼りにならないので、私の両親に全面的に助けてもらいました。

大学1年という医学的知識のほとんどない時代に子育てをしたということは、今小児科医として仕事をする上でとても貴重な経験になっています。娘が39度の発熱でうなっているときただおろおろして抱きしめることしかできなかったこと、熱を出す度に保育所に預けられず、母に来てもらって何とか2限めから授業にでたこと…。ですから熱がでたばかりで救急外来に深夜駆け込んでくるお母さんを見ると、昔の自分を見るようで何とか安心させてあげたいと思うし、仕事に行く恰好で子どもの受診にくる母親を見て、誰かみてくださる人がいるかな、と心配にもなります。

平成18年に実家の近くで小児科医院を開業し、やっと子どもたちと生活を共にすることができるようになりました。学校行事には極力参加するように心がけてはきましたが、それでも子どもたちには随分さみしい思いをさせたと思います。ですが、頑張っているお母さんの姿というのは理解してくれているようです。

現在市の委託事業として医院併設型の病児・病後児保育所を立ち上げる準備をしております。私の原点である子育て支援に関われることを幸せに思います。そしてこれからも自分らしく輝いて生きていけばいいな、と思っています。

(2012年12月記 所属はホームページ掲載時)

さかい けいこ

<著者略歴> 酒井 圭子

さかいこどもクリニック院長

兵庫県加西市出身

平成 11 年 滋賀医科大学卒業

家族：夫、娘(18)、息子(15)

趣味：社交ダンス(プロ資格)、観劇、ダンス教室主宰(サカイダンスアカデミー) 小学生から大人まで指導

～男女共同参画推進委員会より～

「小児科医バンクについて」

こどもの体調が悪くなったときに急に代診を頼むことができるか、ということは子育てと仕事を両立しながら働いている医師にとって切実な問題です。日本小児科学会では2006年に「小児科医バンク」を設立しました (<http://qolpro.umin.jp/>)。上記のような代診の可否のみならず産休・育休の取得や勤務時間の変更の可否、保育所の有無などきめ細かな情報を含めた小児科医の求人情報を掲載しています。学会ホームページの「各種活動」のところからアクセスできますので、ぜひ一度ご覧下さい。

※ 「小児科医バンク」は2019年12月をもってサイトを閉鎖いたしました。